

# わかやま母親通信

第93号 2022年4月16日発行

発行 和歌山県母親大会連絡会 事務局 和歌山市小松原通3の20 和歌山県教育会館内  
和教組 TEL073-423-2261 FAX073-436-3243 母連メール：w\_haharen@wkn.or.jp

生命を生み出す母親は  
生命を育て  
生命を守ることをのぞみます

HP 和歌山県母親大会

## 第66回和歌山県母親大会 和歌山市で開催

第66回和歌山県母親大会は、6月19日（日）10：00～15：50 プラザホープ  
和歌山で開催します。午前は5つの分科会、午後は全体会となります。

全体会の記念講演は、下記の内容を予定しています。



演題 **気候危機 待ったなし！**  
**持続可能な未来へ 今必要なこと**

講師 **和田 武 氏**（和歌山大学客員教授 元環境学会会長  
自然エネルギー市民の会代表）

和田武先生は地球環境問題の第一人者として多数の著書を出しておられますが、最新著『地球環境保全論—持続可能な社会をめざして』の「まえがき」の抜粋を掲載します。当日の講演内容の予備学習としてお役に立てばと思います。（「まえがき」から）

本書は、1990年に初版を出した『地球環境論』、改訂版(1997)、再改定版(2011)を引き継ぎつつ、最新の知見に基づいて修正、加筆して書き上げた書籍である。……

「いま、人類は歴史上かつて経験したことのない新たな、そして困難な危機に直面している。人類の活動によって、地球環境全体が急速に変化しつつあり、このまま進行すれば、人類のみならず、地球上に住む全ての生物にも重大な危機が訪れる恐れ 2Pへ

### 明日へ

私の住む海南市小野田地区に規模の大きい太陽光発電所が建設されようとしています。建設予定の場所の谷は、土石流でできた扇状地で、海南市のハザードマップには土石災害危険個所となっています。この谷に隣接するお宅は、過去の大水で三度の床上浸水に襲われていて、この谷から流れた水は小野田川に流れ込み、洪水を引き起こす恐れがあると記載されています。

昨年7月の業者者説明会では、多くの参加者から疑問と不安が訴えられ、全員反対を表明しました。2回目の説明会は11月20日で、前日の母連対県交渉で、私はこの建設を許可しないよう要望したところ、県は「事前協議は継続中」と回答しました。しかし、翌日の説明会で業者は、「県との事前協議は終わっている」とうその話を持ち出しました。こういう不誠実な業者に建設をさせたくないですし、行政には、住民の意向を前提とする条例を作ってほしいです。K. F. 「市民と地域主導の方法」を学びたいですね。

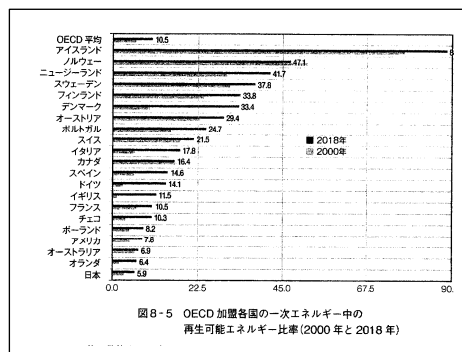
が生じているのである」（『地球環境論』まえがき）という状況は、31年経過したいまでも基本的に変化していないし、むしろ、地球温暖化・気候変動は人類の生存基盤をも脅かしかねない段階にきており、最近は新たにプラスチック海洋汚染が深刻化し、浮遊粒子物質による大気汚染も、生物多様性の喪失についても、以前より厳しさを増している状況にあり、出版の最終目的である地球環境を保全できる見通しはまだ立っていない。そこで、地球環境を保全しうる持続可能な社会の構築に向けて少しでも貢献できればという思いもあり、本書を出版した次第である。

第1章…基礎となる地球環境の歴史としくみについて、
第2章…「オゾン層破壊」 極地でのオゾンホールが継続して発生。その影響は？
第3章…「地球温暖化・気候変動問題」 パリ協定の確実な履行のための方策は？
第4章…「大気汚染、酸性雨の世界的拡大、さらに浮遊粒子状物質 PM2.5 汚染」
第5章…「海洋汚染」 残留性有毒物質、プラスチック汚染の被害と対応。
第6章…「放射性物質汚染」 汚染防止の上で核兵器の廃絶と原発の削減の必要性。
第7章…「進行する生物多様性の喪失」 この項のみ、小堀洋美の執筆となる。
* 「戦争による環境破壊」については、『環境と平和』（あけび書房 2009）で執筆。
第8章…地球環境問題の本質と特徴を踏まえ、持続可能な生産・消費体系を論じる。

環境保全を推進することは、新たな産業や雇用を生み出すとともに、社会の民主化をも推進するはずである。決して暗い窮屈な社会をもたらしたりはしない。青い空、きれいな空気、澄み切った清流、緑の野山、いたるところで育まれている数限りない生命、このような素晴らしい地球環境の保全を可能にする持続可能な社会では、労働の喜びも増すに違いない。地球環境危機の克服と持続可能な社会の実現をめざして、確信を持って歩み続けたいものである。本書が、…少しでも役立てば、…望外の喜びである。（「あとがき」より）

……本書の執筆中、新型コロナウイルス(COVID19)のパンデミックが猛威を振るった。未知の感染症自体が、地球温暖化等が進むとより高い頻度で発生するという予測もされているが、この世界的経験は、地球環境を保全する上でも多くの貴重な示唆や教訓を与えてくれたように思う。2020年の温室効果ガス排出量は、前年比数%も削減されそうだが、地球自然が人類にその必要性を示唆したのかもしれない。今後の世界はグリーンリカバリー(環境保全的復興)を成し遂げ、引き続き持続可能な社会の実現に結びつけたいものである。

「市民が変われば、地域が変わる。地域が変われば、国が変わる。国が変われば、世界が変わる。」市民や地域の変化を基礎によりよい世界を生み出すために、本書が少しでも役割を果たすことができれば幸いである。……



# 各分科会の案内をします 10:00~12:00

	分科会名	内 容	講師・助言者(敬称略)
1	『わが青春つきるともー伊藤千代子』が生きた戦前の時代と今 ～憲法9条を生かし平和な日本に～	絶対的天皇制が軍事ファシズムを一層強めた頃、治安維持法で反戦と主権在民を願った千代子の人生が踏みにじられ…。今をこんな戦前の時代には戻したくない。	治安維持法犠牲者国家賠償同盟和歌山県本部 鶴田至弘 オンライン併用
2	子どもの健やかな育ちを願ってー ～学校・保育所(幼稚園)・学童保育・家庭・地域から～	コロナ禍の中で、子どもたちはどう過ごしたのか。感染から子どもを守り、体験や学びの機会をつくる工夫や苦労も大変。子どもの育ちに、今必要なことは…?	和歌山県民主教育研究所 助野公彦 新日本婦人の会海草支部 川野英子
3	命が守られる 医療とはー ～コロナと医療・医療制度をめぐる状況・各地の要求運動～	新型コロナ感染流行の中で、日本医療の脆弱さや危機管理能力の低さが露呈した。命を守る医療制度はどうあるべきか。公立病院の産科存続など各地の運動も。	和歌山県医療労働組合 連合会 佐藤英昭
4	女性と人権について 語ろう ～ジェンダー平等とは? だれが自分らしく生きられる社会へ～	なぜ日本は、「ジェンダー平等後進国」なのか。どうすれば、世界水準に近づけるのか。身近な実情も出し合いながら、改善への方策を話し合いましょう。	むくげの会・関西 岩本多賀子 オンライン併用
5	SDGsについて学び、「できる」を考えよう	国連が提唱しているSDGsについて改めて学び、日々の生活や社会活動にどういかしていけば良いか、考え合い意見交換しましょう。	わかやま市民生活 協同組合 津田美法 鈴木真希

- 午前の第1・第4分科会を、会場参加とオンラインの併用にします。他の3分科会は会場参加のみです。
- 午後の全体会は、会場参加とオンラインの併用です。
- 各郡市母連事務局、加盟団体を通じて申し込んでください。HPからも申込めるようにします。
- オンライン参加は、①個人②グループ③サテライト会場設置などを考えます。
- 申込み第一次締切は、5月末と考えています。
- 6月中旬までに、ミーティングIDとパスコードを各団体を通じて連絡します。(HPからの方には直接)
- 当日は30分前から入室できるように準備したいと思います。

女性も男性も参加できます。日頃の想いや切実な願いを語り合いましょう。適切なアドバイスや解決へのヒントが出てくるかもしれません。



3月19日の実行委員会で、下記の抗議声明を採択し、同時に、ロシア大使館宛で、ロシア連邦大統領ウラジーミル プーチンへ要請文を送付しました。

## 抗議声明

ロシアによるウクライナへの軍事侵略が始まって3週間余り、無差別攻撃が激しさを増しています。国際法で禁止された病院、幼稚園、人々が避難した劇場、原発までも攻撃対象とし、民間人の犠牲が急速に拡大しています。

国連の関連機関、国際移住機関は、国外に逃れたウクライナ難民は300万人を超えたと発表しました。国内でも多くの方が西部地域での避難生活を余儀なくされていると報道されています。国連の推計では、最終的に難民400万人、国内避難民は1200万人に達するとの予測です。

家、仕事、家族、生活のすべてを根こそぎ奪われて国外に逃れる人々の絶望は想像を絶します。国内に留まる人も、食料や飲料水が乏しく危機的状況とされています。ウクライナの人々の穏やかな日常と多くの命を奪った軍事侵略を強く非難し、即時撤退を強く求めます。

国連憲章で定められた紛争の平和的解決義務と、他国への侵略禁止が、プーチン大統領によっていとも簡単に踏みにじられたのは信じがたいことです。国連憲章は20世紀の2度にわたる大きな戦争の犠牲から得た人類の到達点です。

国連総会緊急特別会合は141か国の賛成で、ロシアの侵略非難の決議を採択しました。圧倒的に多くの国が、国連憲章と国際法を根拠にロシアを批判したのです。

国内においては、ロシアの侵攻が始まるや「核兵器の共有」を言い出す政治家が現れました。岸田首相は、「軍事力の強化」と「軍事同盟に強化」を強調しました。しかし、力に対して力で対抗するならば、結果としてロシアの覇権主義を認め同調することになります。

国会の公聴会では、国際法学者松井芳郎氏が、「国際法の執行の力とは、諸国民の連帯、国際世論だ」と述べています。

「力には力」ではなく、圧倒的な国際世論でロシアを包囲し、平和的解決を達成しなければなりません。「核戦争の危機から子どもを守ろう」と始まった母親大会に集う私たちは、全力で奮闘します。

2022年3月19日

第66回和歌山県母親大会実行委員会

.....

ロシア連邦大統領 ウラジーミル プーチン 様

**ロシアのウクライナへの軍事侵略に抗議し、**

**即時撤退と国連憲章・国際法を遵守することを求めます**

\*尚、本文は上記「抗議声明」を踏まえたもので、紙面の都合上割愛します。